

## 千里の鳥・万博の鳥(第92回)「ウグイス幼鳥」(2020年6月)

コロナ・コロナの鬱陶しい日々が続いているが、それを吹き飛ばすような明るいニュースをお届けする。

ウグイスは「法華経」のさえずりで、誰もが良く知っている鳥である。冬の間「チャッ・チャッ」と舌打ちしながら住宅の庭を飛び回っていたウグイス、ウメの香が漂い始めるころ、小さな緑陰や竹林から「ホー」とさえずりの練習が始まり、「ホーホケキョ」の歌が上手になる頃、いつの間にかいなくなっている。連休の頃、箕面公園など近郊低山のハイキング道を歩くと「ホーホケキョ」・「ケキョ・ケキョ・ケキョ」と、朗々とした歌声が聞こえ、姿が見えなくてもウグイスのいることに納得する。

ウグイスは雄が体長15.5cmほどでスズメよりやや大きく、雌は13.5cmほどでスズメより幾分小さい鳥。体色は明るいウグイス餅の色とされているが、実際は暗い黄緑色(いわゆるモスグリーン)の渋い色である。さえずるときホオジロ・シジュウカラのように、見晴らしの良い枯れ枝の先などで歌う鳥が多い中、ウグイスは樹間でさえずっており、歌声を聞いて探しても、見つからないことが多い。

万博公園探鳥会では、ウグイスの姿を見ることがほとんどないものの、ほぼ一年中住んでいることを声で確認している。繁殖期5~7月もさえずりを聞けるので、園内で繁殖していることは間違いないと思ってきた。

鳥がそこで繁殖しているかどうかの基準は、  
**aランク**……繁殖を確認(ヒナに餌を運ぶ親がいた、巣立ち直後の幼鳥がいた、など)

**bランク**……繁殖の可能性がある(繁殖期にさえずり聞いた、親鳥が巣材を運んでいた、など)  
の何れかであるが、万博公園でこれまでの確認は、繁殖シーズンにさえずりが聞ける、すなわちbランクに止まっていた。

今回有賀氏の写真は繁殖基準aランク、風切羽や尾羽がほとんど伸びきっていない巣立ち直後と思われる幼鳥である。

ウグイスは親でもブッシュの中において姿が見えないの

で、写真のような幼鳥を私(平)は見たことがなく、またバードウォッチング歴の長い人でも同様と思われる。

有賀氏によるとウグイス幼鳥は1羽でなかったとのこと、幼鳥たちの今を見ることはできないものの、どれほど大きくなっているだろうか、今後どんな生活を送るだろうかと興味津々である。

万博公園に住み続けてくれるならば、

・今秋には「チャッ・チャッ」と舌打ちしながら

・来春には「ホーホケキョ」の歌声で

生きているサインを送ってくれる筈と、今から楽しみにしている。

\*\*\*\* 写真 \*\*\*\*

種名:ウグイス幼鳥

撮影日:2020年5月12日

場所:万博公園

撮影者:有賀憲介

\*\*\*\*\*

### 探鳥会中止のお知らせ

新型コロナウイルス感染症防止への対応のため、2020年6月も探鳥会を中止いたします。

今月も紙上バードウォッチングに

「ウグイス幼鳥」

を楽しんでくださるよう、お願いします。

・日本野鳥の会大阪支部主催

万博公園定例探鳥会—6月13日(土)

・吹田野鳥の会主催

万博公園平日探鳥会—6月16日(火)

